



め」の作り方を教えたり、編んだりして作

った。親子で参加した同市常磐城の清水義明さん(33)は作りながら「わらが緩んでしまい難しい」。室賀さんは「しめ飾りの作り方は私たちの年齢でも農村の人でなければなかなか知らない。こうした日本の文化を絶やしてはいけない」と話していた。

## 短大講師招いて 源氏物語講演会

佐久・浅科図書館

佐久市八幡の市立浅科

車内で子どもたちにプレ

紫式部の生涯や源氏物語の時代背景について講演する上原講師



図書館は二十三日、佐久市出身で、青山学院女子短期大で平安文学を研究する上原作和講師(43)の講演会を開いた。平安時代に演奏された七絃琴(しちげんきん)の音色が流れ、香をたきながらの講演を約五十人の参加者が聞いた。

上原講師は源氏物語の

作者・紫式部の生涯や、光源氏を主人公とした物語の名場面について講演。「二千円札に使われた紫式部の絵柄は酔った男に冷やかされている場面」と説明すると、参加者から笑い声が上がった。

光源氏が須磨に下った場面の解説では、都を恋しがって光源氏が弾いた曲ではないかと、中国の七絃琴の曲「関山月」を演奏。香のかぐわしさを競う遊び「薫物合(たきものあわせ)」の場面について、香木を配りながら原文を解説した。

小諸市の小林満州子さん(73)は「源氏物語はたびたび読んできました。先生が読む原文の古語は、耳で聞くと心地よいですね」と話した。